

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-063449
(43)Date of publication of application : 07.03.1997

(51)Int.Cl. H01H 71/74
H01H 11/00
H01H 61/01
H01H 69/01

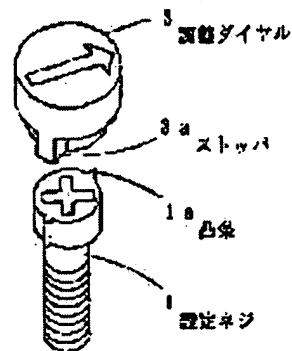
(21)Application number : 07-211501 (71)Applicant : FUJI ELECTRIC CO LTD
(22)Date of filing : 21.08.1995 (72)Inventor : FURUHATA YUKIO

(54) THERMAL OVERLOAD RELAY, AND ASSEMBLING METHOD

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To surely make the indicator of an adjusting dial correspond to the reference scale for a setting on a case.

SOLUTION: A set screw 1, formed of protruded threads 1a at a head part, is adjusted into a reference condition in a relay. The round hole of an adjusting dial 3 is pressed into the head part of the screw 1, in a condition where the indicator of the dial 3, formed of a round hole on a bottom surface, is conformed to the reference scale on a case.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the
examiner's decision of rejection or application
converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of
rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-63449

(43) 公開日 平成9年(1997)3月7日

(51) Int. Cl. ⁶	識別記号	片内整理番号	P I	技術表示箇所
H 0 1 H 71/74			H 0 1 H 71/74	
11/00			11/00	U
61/01			61/01	E
69/01			69/01	

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平7-211501

(22) 出願日 平成7年(1995)8月21日

(71) 出願人 000005234

富士電機株式会社

神奈川県川崎市川崎区田辺新田1番1号

(72) 発明者 古畑 常生

神奈川県川崎市川崎区田辺新田1番1号

富士電機株式会社内

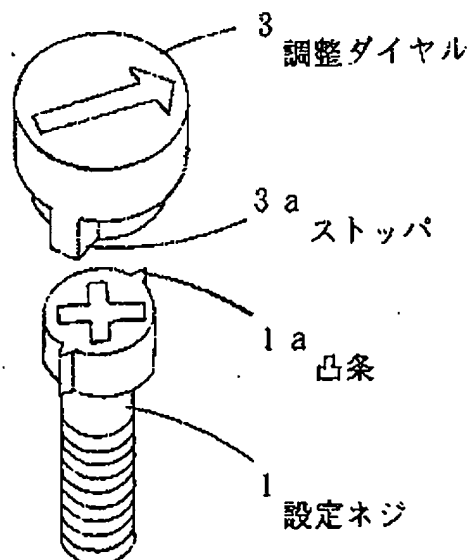
(74) 代理人 弁理士 山口 巖

(54) 【発明の名称】 熱形過負荷継電器およびその組立方法

(57) 【要約】

【課題】調整ダイヤルの指針をケースの設定値の基準目盛りに確実に一致させる。

【解決手段】頭部に凸条1aを形成した設定ネジ1を図示しない継電器内で基準状態に調整して保持しておき、底面に丸穴が形成された調整ダイヤル3の指針を不図示のケースの基準目盛りに一致させた状態で調整ダイヤル3の丸穴を設定ネジ1の頭部に圧入させる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】主回路に接続されるヒータと、このヒータが巻回されたバイメタルと、このバイメタルの湾曲に応じて移動するシフタと、このシフタの移動により反転動作する反転板と、この反転板の動作位置を調整する調整リンクと、この調整リンクを操作する設定ネジに一体的に取付けられた調整ダイヤルとを備えた熱形過負荷継電器において、

前記設定ネジは、頭部側面に圧入用の凸条が少なくとも1つ形成され、

前記調整ダイヤルは、その底面側に設定ネジの頭部が圧入される丸穴を有することを特徴とする熱形過負荷継電器。

【請求項2】主回路に接続されるヒータと、このヒータが巻回されたバイメタルと、このバイメタルの湾曲に応じて移動するシフタと、このシフタの移動により反転動作する反転板と、この反転板の動作位置を調整する調整リンクと、この調整リンクを操作する設定ネジに一体的に取付けられた調整ダイヤルとを備えた熱形過負荷継電器における調整ダイヤルの組立方法であって、頭部側面に圧入用の凸条が少なくとも1つ形成された設定ネジがケースに基準状態で取付けられ、

調整ダイヤルは、その底面に丸穴が設けられるとともに丸穴の外周面に形成された調整ダイヤルのストッパがケースに形成されたストッパに接触させた後、前記丸穴を設定ネジの頭部に圧入することを特徴とする熱形過負荷継電器の組立方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、電動機などの負荷に流れる過電流をヒータに通電してバイメタルを湾曲させ、このバイメタルの変位によって接点を開閉させる熱形過負荷継電器に関し、特に設定値に応じて調整ダイヤルを回転させて目盛りを定める調整ダイヤル関係の構造とこの組立方法に関する。

【0002】

【従来の技術】この種の熱形過負荷継電器の動作原理を図3に示す。設定部は、樹脂製のケース11に板バネ16を介して取付けられた設定ネジ15とこの設定ネジ15の頭部に一体的に取付けられた調整ダイヤル17とからなる。設定ネジ15の端部は固定支点12bを中心として回転可能でバネ13によって押される調整リンク12の一方の脚片の凸部と当接している。ヒータ21で巻かれたバイメタル22はヒータ21の電流が増すと温度の上昇によってスライダ23をA方向へ移動させるように変位し、このスライダ23を介して一端が調整リンク12の他方の脚片に回転可能に取付けられた釈放レバー14を時計回りに回転させて寸法dの間隔を縮める。釈放レバー14が更に回転してバネ26を押圧し、バネ26が死点位置を越えると反転板27が反転して接点28を

閉じる。ダイヤル17を操作して設定ネジ15をB方向に移動させると釈放レバー14は一点鎖線のCの位置になって間隔dが大きくなり、電流がより大でなければ動作できないようになり、ダイヤル17の操作により設定電流が定められる。

【0003】図4によってこの設定部の構造を詳しく説明する。ケース11には板バネ16が入る溝が形成され、設定ネジ15の頭部が挿入される溝に調整ダイヤル17のストッパ17bの回転制限用のケースストッパ11a、および設定値表示11b、更にネジ孔11cが形成されている。調整ダイヤル17は指針部17cと共に設定ネジ15のネジ溝15aと嵌まって圧入できる凸部17aが形成されている。ケース11に板バネ16、設定ネジ15を結合させて固定支点12b付き調整リンク12の凸部12cと位置合わせしてから設定ネジ15に調整ダイヤル17を嵌める。

【0004】図5は設定ネジ15のネジ溝15aと調整ダイヤル17の凸部17aとの関係を示す図で、凸部17aは角度 θ 毎に嵌合できる構造であった。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】従来の技術で述べた例では、図5に示すように設定ネジの溝と調整ダイヤルの凸部が一致しないと嵌まらず角度 θ 毎に嵌合位置が定められる。ケースのストッパを基準として調整ダイヤルのストッパを当接させ指針を目盛りと合わせて嵌める時に、調整ネジの溝の位置が一定でないため、最大角度が θ だけずれて圧入されてしまい、あらかじめ印字されている目盛りと調整ダイヤルの指針とがずれてしまうという欠点があった。

【0006】この発明の課題は、2つのストッパが当接する状態で設定値表示の基準目盛りと調整ダイヤルの指針が一致する熱形過負荷継電器を提供することである。

【0007】

【課題を解決するための手段】前述した課題を達成するため請求項1に記載した発明は、主回路に接続されるヒータと、このヒータが巻回されたバイメタルと、このバイメタルの湾曲に応じて移動するシフタと、このシフタの移動により反転動作する反転板と、この反転板の動作位置を調整する調整リンクと、この調整リンクを操作する設定ネジに一体的に取付けられた調整ダイヤルとを備えた熱形過負荷継電器において、前記設定ネジは頭部側面に圧入用の凸条が少なくとも1つ形成され、前記調整ダイヤルはその底面側に設定ネジの頭部が圧入される丸穴を有することを特徴とする。

【0008】また、請求項2に記載の発明は、主回路に接続されるヒータと、このヒータが巻回されたバイメタルと、このバイメタルの湾曲に応じて移動するシフタと、このシフタの移動により反転動作する反転板と、この反転板の動作位置を調整する調整リンクと、この調整リンクを操作する設定ネジに一体的に取付けられた調整

10

20

30

40

50

ダイヤルとを備えた熱形過負荷継電器における調整ダイヤルの組立方法であって、頭部側面に圧入用の凸条が少なくとも1つ形成された設定ネジがケースに基準状態で取付けられ、調整ダイヤルは、その底面に丸穴が設けられるとともに丸穴の外周面に形成された調整ダイヤルのストッパがケースに形成されたストッパに接触させた後、前記丸穴を設定ネジの頭部に圧入することを特徴とする。

【0009】

【作用】請求項1または2に記載の発明によれば、調整ダイヤルの内側の凸部を無くしてどこでも設定ネジに圧入できるので、ケースのストッパに調整ダイヤルのストッパを接触させると調整ダイヤルの指針はケースの設定値の目盛りと一致する位置で圧入して用いることができるので設定値と指針が常に一致する。

【0010】

【実施例】この発明の実施例を図1に示す。図1では請求項1または2に記載の発明の主要部のみを示し、他の構成は図3に示すものと同一であるので省略している。図1において、設定ネジ1の頭部側面に凸条1aを設け、ケースに組み込み入力を定めた値とする基準状態にして調整する。そして、調整ダイヤル3にはストッパ3aと、図では見えない後述する図2に示すような丸穴が形成されている。この調整ダイヤル3の取付けは、ストッパ3aをケースのストッパ（図4参照）の両側面を接触させたまま調整ダイヤル3内の図示しない丸穴を設定ネジ1の頭部に圧入する。図では凸部1aを強調したが圧入に必要な寸法は少しのため、調整ダイヤル3の丸穴と設定ネジ1の頂部は嵌まり易い状態になる。

【0011】図2はこの発明の別な実施例をわかりやすいように示した図で、設定ネジ2に凸部2aを複数設けて、調整ダイヤル3の丸穴3bを同様に圧入する。圧入を安定にできるように凸部の数を図1より多くしてある。なお、図示しないが、図4の設定ネジ15のネジ溝15aの深さを浅くしても同様に実現できる。 *

*【0012】

【発明の効果】請求項1または2に記載した発明によれば、調整ダイヤルの設定ネジ圧入用の穴を丸穴とし、設定ネジの凸条がどの位置でも圧入できるので、基準の目盛りと調整ダイヤルの指針が常に一致できて精度が向上する。また、請求項2に記載の発明によれば、自動で組み立てする時に2つのストッパを基準として無調整で圧入できるので高い精度で、かつ短い時間で組み立てられる。

【図面の簡単な説明】

【図1】請求項1または2に記載の発明の実施例の主要部の斜視図

【図2】請求項1または2に記載の発明の他の実施例の主要部の説明図

【図3】熱形過負荷継電器の動作原理図

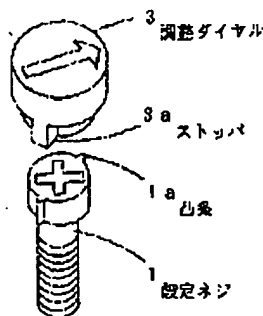
【図4】熱形過負荷継電器の従来例の構成図

【図5】調整ネジと調整ダイヤルの説明図

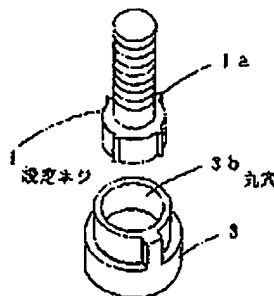
【符号の説明】

- 1 設定ネジ
- 1a 凸条
- 2 設定ネジ
- 2a 凸部
- 3 調整ダイヤル
- 3a ストッパ
- 3b 丸穴
- 12 調整リンク
- 12b 固定支点
- 13 パネ
- 14 釈放レバー
- 15 設定ネジ
- 21 ヒータ
- 22 バイメタル
- 27 反転板
- 28 接点

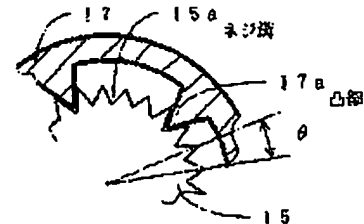
【図1】



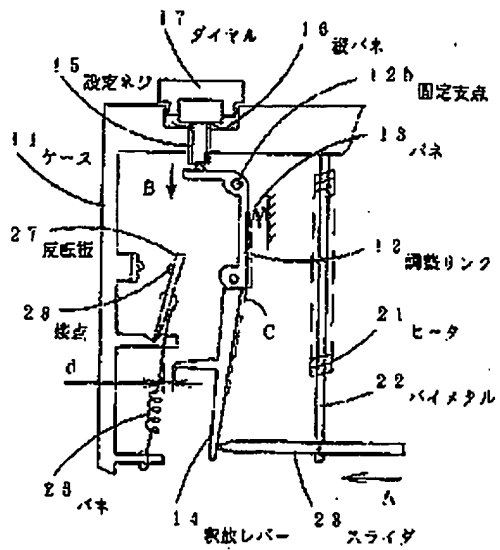
【図2】



【図5】



【図3】



【図4】

